

2	第4回世界のウチナーンチュ大会 ルーツはウチナーンチュ
4	県政フラッシュ
6	特集1 沖縄観光の新しい取り組み!
8	特集2 みんなで考えよう市町村合併
10	特集3 あなたの意見を聞かせてください ～那覇空港の総合的な調査～
12	亜熱帯 美ツクリレンズ ～やんばるに暮らす生き物たちの素顔～
14	愛ランドまーい 地域がはぐくんだ、ふれあいのつながりを訪ねて
16	県の動き1 平和への祈りを沖縄から
17	県の動き2 節度ある適度な飲酒を心がけましょう! ストレスと上手につきあいましょう!
18	情報広場 おしらせ
20	おきなわ夢人列伝

表紙写真  
「花の島、沖縄四季抄」  
8月号表紙写真 「月下美人(雌しべ)」  
写真：久高 将和 (くだか まさかず)

### 沖縄県広報誌「美ら島沖縄」について

沖縄県広報誌「美ら島沖縄」は、県の施策や情報をわかりやすく県民のみならずにお伝えする冊子です。公共機関や学校、銀行、病院など多くの方が利用する施設でご覧になることができるほか、沖縄ファミリーマートの店舗で無料配布しています。

沖縄県広報課 TEL.098-866-2020  
http://www.pref.okinawa.jp/churahome/



# ルーツは、ウチナーンチュ

移民の歴史に学ぶ、次世代の国際交流

第四回世界のウチナーンチュ大会に向けて、県内の学校では、移民として海外に渡った県人の歴史や移民国の文化などについて学び、移民県沖繩らしい国際交流をめざす「一校一國運動」に取り組んでいます。

「多文化共生」をテーマに、ブラジル移民への理解を深める

「二校一國運動」ブラジル交流パイロット校 南風原高校



楽しく指導する下地先生

ブラジル交流のパイロット校である南風原高校では「沖繩の歴史」や「世界史」の授業の中で、移民について学んでいます。

特に、JRC部では「多文化共生」をテーマに、ブラジル移民の歴史や文化などについて学習を進めています。

JICAやNGOなどが主催する講座への参加や発表、海外から沖繩に戻ってきた県系人へのインタビューなどを通じて、移民への理解を深めており「全国高校ユネスコ研究大会」でも移民について発表する予定です。

また、同部では、「海を渡る豚プロジェクト」の二環として、移民の方々へ感謝と友情の気持ちを豚のぬいぐるみに託し、ブラジル沖繩県人会へメッセージを送っており「ウチナーンチュ大会で会えるのが楽しみ」との返事をもたらしています。

※JRC 青少年赤十字の略。



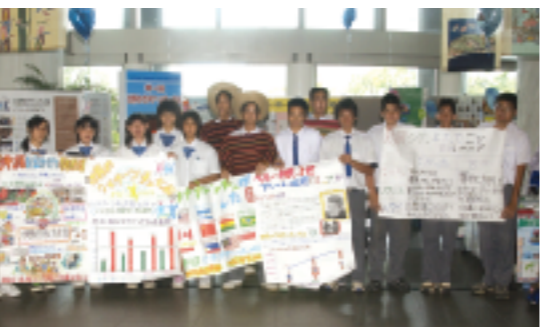
移民の歴史を学ぶ部員たち

## 宜野湾中三年生が移民について発表

第四回世界のウチナーンチュ大会のパネル展が開かれている県庁ロビーで、宜野湾中学校三年生十五人が総合学習で学んだ沖繩からの移民についてポスターセッション(発表会)を行いました。

テーマは「沖繩を助けた移民たち」「世界のウチナーンチュ大会のはじまり」「ペルー移民三世アルベルト城間を追って」「ウチナーンチュが移民した国々」「移民してよかったこと・苦しかったこと」の五つ。

このうち「沖繩を助けた移民達」について調べた三人の生徒たちは「第二次世界大戦後の沖繩が貧しかった頃に、移民国で沖繩戦災救助運動が起こり、移民した人々が、救済物資を贈るなど、沖繩を暖かく支援しました」などと発表しました。



5つのテーマに取り組んだポスターセッションが注目を集めました。

## 大会ボランティア(通訳・一般)募集!

TEL.098-861-7034 http://www.chimugukuru.com

## 第4回 世界のウチナーンチュ大会

前夜祭 平成18年10月11日(水)  
本大会 平成18年10月12日(木)～15日(日)  
会場 沖縄コンベンションセンター・宜野湾市立体育館  
宜野湾海浜公園・宜野湾市民会館・沖縄県立武道館  
奥武山総合運動公園・沖縄県総合運動公園

## Event

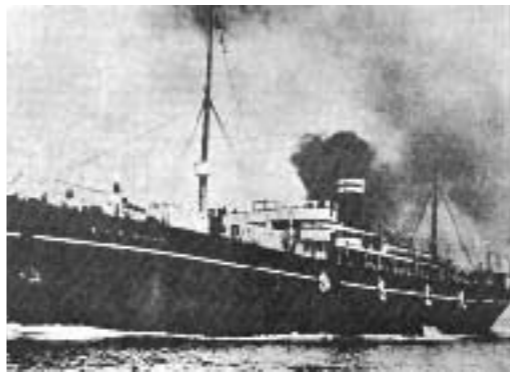
11 WED 前夜祭パレード  
各国からの参加者が思いの衣装で国際通りをパレードします。

12 THU 開会式  
開会宣言、各国県人会紹介、ウチナー民間大使紹介を含め、感動的な演出による歓迎のセレモニーを行います。

15 SUN フィナーレ  
大会の成功を祝い、ウチナーネットワークの継承と発展を全員で誓う感動のフィナーレ。

経済交流  
ワールドバザール ワールドビジネスフェア  
スポーツ交流  
国際交流ゲートボール大会 空手道・古武道交流祭

文化交流  
ウチナーンチュ交流祭 沖縄伝統芸能祭 沖縄郷土劇場  
ウチナーネットワーク  
ウチナーンチュシンポジウム ワールド学生会議



第1回移民を運んだ笠戸丸

ブラジル移民物語  
「コーヒー農地へ、家族農業契約移民 三百二十五名渡る」

明治四十一年、七百八十一人からなる初めてのブラジル家族農業契約移民を乗せた「笠戸丸」が、五十二日間の船旅の末にサンパウロ州サントス港に着きました。このとき、ブラジルへ渡航した家族移民の約半数にのぼる三百二十五人が沖繩県人でした。

コーヒーづくりを始めたものの、渡航前のうたい文句とはほど遠く、不作のため働いても借金がかさむばかりで農業をやめてしまう家族が相次ぎました。

二回目の移民事業は四年後に行なわれましたが、その後は定着率の低さから県民の渡航は大正五年まで中断される事態に。大正六年、渡航が解禁されると、移民が押し寄せ、その数は三年間でおよそ五千人に膨れ上がりました。

移民が殺到した耕地では、なお契約違反や逃亡も頻発して県人は再び渡航禁止となり、わずかに呼寄せ移民が渡っただけでした。昭和元年、ブラジル県人が球陽協会を設立し、移民解禁運動を進めたことにより、昭和三年に条件付きで渡航

が解除され、渡航費補助移民の八家族が渡りました。その条件付き渡航も昭和九年には、条件が完全に解除され、同時にブラジル移民はピークを迎えました。

戦後は、昭和二十八年からブラジル移民の道が再開され、近親の呼寄せ移民や産業開発青年隊らが渡航しました。

平成二十二年に日系移民百周年を迎えるブラジル。今日、八十万人の日系人社会に発展した中の約二割を沖繩県人が占めています。

(「ブラジル沖繩移民誌」参照)